

1 研究開発プロジェクト名:

幸せの可視化(幸せ体温計)に関する調査研究開発プロジェクト

2 当該年度の研究開発プロジェクト実施予定期間:

2016年1月1日から2020年3月31日 / 4年計画の3年目

3 応募者

氏名	坂井田 弥希
所属機関	株式会社ニッポン・ハッピー・シェアリング
所属部局	
職名	代表取締役

4 研究開発プロジェクトの概要

2013年に国連から発表された世界の国民幸福度ランキングで日本は43位、2015年は46位、そして2016年には53位に後退。先進国では際立って低い順位となっています。

このような状況の下、日本では内閣府経済社会総合研究所において幸福度に関する研究会を実施、幸福度指標試案が提出されるなど、「幸せ」についての国民的議論が重要視され始めています。

従来、「幸せ」の研究は哲学や宗教の分野として研究されてきましたが、現在では「幸福学」という分野が確立され、心理学、医学、脳科学などの自然科学分野や、社会学、経済学にいたる様々な分野からのアプローチにより研究が進められ、医学的見地からも、幸福度の高い人は免疫力が高く、健康状態が良いことも各種論文にて発表されています。(*1)。

このような社会的背景を踏まえ、「幸福である」という概念を拡散し、循環させることは社会的貢献度が高く、「幸せである」という情報を数値化して可視化していくことは、自分自身が幸せな状態であるか否かという現状を知り、個々に幸福度を高める努力をすることにつながっていくと考えます。

そこで我々は、様々な研究者の知見を活用して、自身の幸福に関しての状態を把握すべく、「幸福である」という状態における脳の動き、もしくはそれに代わる人間の内面的要素の計測を行う機器の開発 = 「幸せ体温計」の開発を進めるべく、プロジェクトを立ち上げました。

本プロジェクトでは、「幸せな状態である人の脳」(*2)の医学的な研究結果を主軸に、様々な研究機関で開発されつつある脳波計測機や、その他計測機器を利活用して計測機器を開発。世の中に広く普及していくためにエンターテインメント化して具現化。主観的「幸せ」と、脳波(脳の部位別)との関連による、脳波からの幸せ測定のためのアルゴリズムと機器の精度等の調査研究開発を実施していきます。

*1(以下の参考論文)

- S. Cohen, C. M. Alper, W. J. Doyle, J. J. Treanor, R. B. Turner, "Positive Emotional Style Predicts Resistance to Illness After Experimental Exposure to Rhinovirus or Influenza A Virus." Psychosomatic Medicine, 65 (2006), 653-657
- K. W. Davidson, E. Mostofsky, W. Wahang "Don't worry, be happy: positive affect and reduced 10-year incident coronary heart disease: The Canadian Nova Scotia Health Survey" European Heart Journal 31(2010), 1065-1070
- S. Dockray, A. Steptoe "Positive affect and psychobiological processes" Neuroscience & Biobehavioral Reviews 35 (2010), 69-75

- Steptoe A, Wardle J, Marmot M, “ Positive affect and health-related neuroendocrine, cardiovascular, and inflammatory processes. ” Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America. 2005; 102:6508-6512.
- E. Diener, M. Y. Chan “ Happy People Live Longer: Subjective Well-Being Contributes to Health and Longevity ” Applied Psychology: Health and Well-Being.2011, 3(1) 1-43
- *2 M. Matsunaga, H. Kawamichi, T. Koike, K. Yoshihara, Y. Yoshida, H. K. Takahashi, E. Nakagawa, N. Sadato “ Structural and functional associations of the rostral anterior cingulate cortex with subjective happiness ” NeuroImage 134 (2016), 132-141